岡城址に立つ（松口月城）

昔は　是れ　難攻　不落の　城
今　看る　塁壁　草蘿　生ずるを
銀鞍　白馬　何れの　処にか　尋ねん
孤雁　月を　掠めて　鳴いて　声　有り

解説　岡城は大分県竹田市に現存していた城で、武将緒方三郎惟栄が源頼朝と仲違いをしていた弟、義経を迎えるため築城したと伝えられている。作曲家・滝廉太郎はこの地で育ち、岡城は荒城の月のモデルとされている。

語釈　※塁壁＝とりでの壁。城壁。※草蘿＝アブラナ科の多年草。※銀鞍白馬＝白馬に取り付けた銀製の鞍。※孤雁＝群れを離れて一羽だけでいる雁。※掠め＝今にも触れそうにして、す早く通り過ぎる。

通釈　昔の岡城は難攻不落の城であったが、現在の城壁には草蘿がはびこっている。源義経の為に築城したと言われているが、今後、銀鞍白馬の勇士が何れの処から訪ね来るのか。今は一羽の雁が声を発して月を掠めて行くばかりである。